



ARTCOURT Gallery

Yagi Art Management, Inc.

OAP ARTCOURT 1F 1-8-5 Tenmabashi Kita-ku Osaka 5300042 JAPAN

## 今井祝雄—Retrospective—映像と映像

Norio Imai Retrospective - Reflection and Projection



今井祝雄は、具体美術協会(以下「具体」)の会員となった1965年から1972年の解散まで、白の作品を精力的に発表しました。物体を内包させたカンヴァスや、画面に穴を開けるなど筆致を残さない作品群は、絵画—レリーフ—立体の境界を越える表現でした。しかし「具体」解散の前後、「物質過剰のこの世界にもはや何も付け加えることは無い」との自覚から、それまでの白い造形による空間表現から、非物質的な映像表現へ関心を移し、時間を切取る写真や、時間の流れを捉えるフィルム、さらに同時再生が可能なビデオを通じて、多角的に“時間の可視化”を試みました。本展では1970年代の作品を中心に、作者の約10年に渡る写真・映像メディアへの挑戦の軌跡を辿ります。今井は「具体」に在籍時より、幾何学形態のスライドプロジェクションや、キネティックなメカニズムの使用など、動的な作用を自作に取り込んできました。そして、1967年に16ミリフィルムによる《円》の制作・発表(同年、第1回草月実験映画祭にて上映)を契機に、写真や映像表現の領域へ道を切り開いていきます。

本展では、21点組の写真作品《ポートレート 0～20歳》(1976年)や、1979年から今日まで1日も欠かさずに続けられる《デイリーポートレート》などの写真作品をご紹介します。いずれも、被写体は作者自身でありながら、“自己”を追求するセルフ・ポートレートからは一線を画しています。写真のもつ複数性が自写像の匿名性を引き出すことによって、主観の排除された、一個人の生きた時間が提示されています。

本展で紹介する映像インスタレーション《ジョイントッド・フィルム》(1972～73年)では、テレビの放映で使用されることになかった多数のフィルムの断片が用いられ、また、作者が“時間の化石”と呼ぶ立体作品《10時5分》(1972年)では、古いテレビのブラウン管を基盤に用いるなど、廃棄される運命にあった情報伝達メディアを自作の表現媒体としています。これらの作品では、本来、非物質的な記録メディアに宿る物質感や存在感が、前景化しているようでもあります。

1970年代の幕開けに今井は、変わりゆく社会状況の中で急速な進展をみせるテクノロジーや過剰な情報化の波が、人びとを“虚”としての日常空間に埋没させ、人間性の喪失すら招きかねないのではないかと危惧をつのらせました。そして、情報化社会や没人間性に対する眼差しから新たな表現へと突き動かされていきます。近年、国内外で再評価の高まる日本の写真・映像表現の一躍を担った今井の活動の一端を、ご高覧頂ければ幸いです。

また、本展を機に2012年の弊廊での個展(1960年代の作品を紹介)と、本展の内容を収録した作品集『NORIO IMAI - Gutai and Later Work(今井祝雄—具体とその後)』を出版いたします。四半世紀の記録メディアの変遷のなかで、時間—空間—物質性に着目した作者の多様な表現を、作品集でもご覧下さい。

《ジョイントッド・フィルム》1972～73年 / 16ミリフィルム、スライド、DVD(9分 / 原画は16ミリフィルム)、リール巻16ミリフィルム

## 【展覧会概要】

展覧会名：今井祝雄—Retrospective—映像と映像 / Norio Imai Retrospective - Reflection and Projection

会 期：2014年7月8日(火)～8月2日(土) \*日・月・祝 休廊 / 開廊時間：11:00～19:00(土曜日 17:00～19:00)

会 場：アートコートギャラリー [〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F]

▶トークイベント：7月19日(土) 15:00～16:00 由本みどり(ニュージャージー・シティ大学准教授、同大学付属ギャラリー・ディレクター) × 今井祝雄

▶レセプション： // 16:00～17:00

## 作品集『NORIO IMAI - Gutai and Later Work(今井祝雄—具体とその後)』

今井祝雄による1960年代、70年代の活動を中心に紹介。最初期から具体時代にかけての代表作、具体解散後の約10年間の制作を通観した作品集。

会場にて販売します。 ■2014年7月19日発行 / 発行元：アートコートギャラリー / 価格：2,000円 +税

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント) | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [八木・福田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAP アートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com URL:www.artcourtgallery.com

## 今井祝雄 略年譜

1946	大阪市生まれ	1980	ビデオ・ローマ' 80 (ローマ民俗美術館、イタリア) 個展「矩形の時間」(ギャラリーキタノサーカス、兵庫)
1964	個展「17才の証言」(ヌーヌ画廊、大阪) 第14回具体美術展(高島屋、大阪)	1981	ビデオによる個展(ザ・バンク、アムステルダム) 個展「Videotape Performance」(ビデオギャラリー SCAN、東京)
1965	大阪市立工芸高校美術科洋画コースを卒業。 第15回具体美術展(グタイピナコテカ、大阪) 具体美術協会会員となる。1972年の解散まで、全ての具体美術展に出品。	1982	第4回シドニー・ビエンナーレ(ニューサウスウェールズ工科大学、シドニー) 個展「セルフポートレイト」(中村画廊、大阪)
1966	海上のゼロ(オレッツ国際画廊、デン・ハーグ、オランダ) 白の空間(ギャラリー16、京都) 第10回シェル美術賞展(白木屋、東京/京都市美術館)1等賞受賞 現代美術の動向(国立近代美術館京都分館) 個展(グタイピナコテカ、大阪) 空間から環境へ(松屋、東京)	1983	現代美術における写真—1970年代の美術を中心として(東京国立近代美術館/京都市立近代美術館) 第12回モントリオール国際ニューシネマ・フェスティバル(モントリオールほか2都市に巡回)
1967	「具体」グループ展(ハイデ・ヒルデブランド画廊、クラーゲンフルト、オーストリア) 第5回パリ青年ビエンナーレ(パリ市立近代美術館) 第1回草月実験映画祭(草月会館ホール、東京/弥栄会館、京都)	1984	AFI 国際フィルム・フェスティバル(AFI、ロサンゼルス)
1968	第8回現代日本美術展(東京都美術館/京都市美術館) 現代日本美術展—蛍光菊(ICA、ロンドン)	1985	日本—未来のアヴァンギャルド(パラッツォ・トゥルシ、ジェノヴァ) 現代のセルフポートレイト(埼玉県立近代美術館)
1970	具体グループによる展示(万国博みどり館、大阪) 第16回オーバーハウゼン国際短編映画祭(オーバーハウゼン、ドイツ)	1986	ビデオカクテルIII(原美術館、東京)
1971	第10回現代日本美術展—人間と自然(東京都美術館/京都市美術館) 個展(ウォーカー画廊、東京)	1988	日本先端科技芸術展(台湾省立美術館、台中)
1972	3人の心臓音による街頭イベント(御堂筋、大阪) 第7回ジャパン・アート・フェスティバル(メキシコ国立大学附属美術館、メキシコシティ/アルゼンチン国立美術館、ブエノスアイレス)	1989	河原温と同時代の美術 1966-1989(ICA 名古屋、愛知)
1973	第8回ジャパン・アート・フェスティバル(リュブリアナ近代美術館、ユーゴスラビア/マンハイム市立美術館、ドイツ)	1990	オブティカル・ムービーの系譜(埼玉県立近代美術館) ヨーロッパ・メディアアート・フェスティバル(オスナブリュック、ドイツ) 日本のビデオアート 80年代(ローマ日本文化会館ほか欧米を巡回) ジャパニーズ・メディア・アート・ナウ(ハノーファー、ドイツ)
1974	インパクトアート・ビデオアート' 74(ギャラリー・インパクト、ローザンヌ、スイス) 第11回日本国際美術展—複製、映像時代のリアリズム(東京都美術館)	1992	日本のヴィデオ・アート特集—80年代編(世田谷美術館、東京) フレームの美学—アニメーションの理論と実践(埼玉県立近代美術館) 現代日本の写真美術(ウォーカーヒルアートセンター、ソウル)
1975	第10回ジャパン・アート・フェスティバル(国立ウエリントン美術館、ニュージーランド/ヴィクトリア州立美術館、メルボルン/クイーンズランド州立美術館、ブリスベン) インターナショナル・オープン・エンカウンター・オン・ビデオ(エスパス・ピエール・カルダン、パリ/市立近代美術館、フェララ、イタリア/CAYC、ブエノスアイレス)	1994	戦後日本の前衛美術(横浜美術館、神奈川/グッゲンハイム美術館ソーホー、ニューヨーク/サンフランシスコ近代美術館 ~1995) 時間/美術—20世紀美術における時間の表現(滋賀県立近代美術館) 日本のアブストラクト・シネマ(イメージ・フォーラム、東京)
1976	第11回ジャパン・アート・フェスティバル(上野の森美術館、東京/ブロードウェイ・デパート、ロサンゼルス/ワシントン州立大学附属美術館、シアトル)	1997	〈私〉美術のすすめ—何故 WATAKUSHI は描かれたか(板橋区立美術館、東京)
1977	第7回国際オープン・エンカウンター・オン・ビデオ(ミロ美術館、バルセロナ) 03 23 03 プロジェクトとイベント(モントリオール/カナダ国立ギャラリー、オタワ) イメージのネットワーク(イメージフォーラム、東京)	2005	個展「デイリーポートレイトの四半世紀」(夢創館、兵庫)
1978	アンダーグラウンド・シネマから個人映画まで(東京都美術館) ジャパン・ビデオアート・フェスティバル(CAYC、ブエノスアイレス) 国際ビデオアート TOKYO' 78(草月会館、東京)	2006	ビデオアート・SCAN コレクション特集上映(川崎市市民ミュージアム、神奈川)
1979	毎日の自画像《デイリーポートレイト》を開始。 自画像による個展(番画廊、大阪)	2007	ラディカル・コミュニケーション：日本のビデオアート 1968-1988(ゲティ・センター、ロサンゼルス)
		2009	ヴァイタル・シグナル—日米初期ビデオアート(ジャパン・ソサエティ、ニューヨーク/ボストン美術館/ロサンゼルス・カウンティ美術館/横浜美術館/国立国際美術館、大阪 ほか ~2010)
		2011	NuI=0.—国際的文脈におけるオランダの前衛 1961-1966(スキエダム市立美術館、オランダ) マスクド・ポートレイト パートII(マリアン・ボエスキー・ギャラリー、ニューヨーク ~2012)
		2012	「具体」ニッポンの前衛 18年の軌跡(国立新美術館、東京) 個展「Retrospective—17才から22才(アートコートギャラリー、大阪)
		2013	具体：素晴らしい遊び場所(グッゲンハイム美術館、ニューヨーク) 個展「白のイベント」(アクセル・ヴェルヴォールト・ギャラリー、アントワープ)
		2014	個展「白の遠近」(ギャラリー・リチャード、ニューヨーク) 1970年代の日本の写真におけるイメージと物質(マリアン・ボエスキー・ギャラリー、ニューヨーク) 個展「白からはじまる」(ユミコチバアソシエイツ・ビューイングルーム 新宿、東京)